



オリーブ 便り Olive News

2019.08.01

No. 422



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

基本
理念

患者さんの権利を尊重し、良質・安全な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し、医療の発展に寄与します。

『小児外科ホットライン開設 一よりよい小児医療のために』

香川大学医学部 小児外科学 助教 田中 彩

小児科医の不足により小児救急医療は厳しい状況となっています。高松および東讃地域では、当院小児科を含めた輪番や救急対応、地域小児科の先生方による高松市夜間急病診療所および大川地区小児夜間急病診療室での診療が行われています。小児救急疾患の中には、外科疾患も含まれており、香川大学医学部附属病院小児外科では小児科の先生方が診察された外科疾患の受け入れを断らないことをモットーに日々診療にあたっています。

小児の外科疾患には多くの病気が含まれます。通常の外来で多くみられるのは鼠径ヘルニアや臍ヘルニア、停留精巣などですが、頑固な便秘や嘔吐、腹痛などで受診される患者さんもいます。これらの症状の中には救急疾患や重大疾患が隠れていることもあり注意が必要です。

「急性虫垂炎」は小学生～中学生に多く見られる疾患で、一般的には「もうちょう」と呼ばれます。右下腹部痛が典型的な症状ですが、小児では進行が早く、穿孔といって穴があいて腹膜炎になることがあります。程度が軽ければ抗生剤による保存療法を行いますが、手術が必要になることもあります。急性虫垂炎には腹腔鏡手術を採用しており、より小さい傷で少ない侵襲での手術が可能です。

「腸重積症」は腸管が腸管にはまり込む病気で1歳前後の乳幼児に多い疾患です。腹痛や嘔吐、血便がみられ、治療が遅れると腸が壊死してしまうこともあります。診断されたら、早急に腸のはまり込みを直す必要があります。

「鼠径ヘルニア」は、脱腸とも呼ばれ、ヘルニアの袋に腸が入り込む病気です。入り込んだ腸が、元に戻る状態であれば緊急性はありませんが、沢山入り込んでしまい元に戻らなくなると腸への血流が悪くなり迅速な処置が必要となります。

小児、特に小さい幼児は症状をうまく訴えることができず、病気を診断するのが難しいこともあります。「いつもと違う」「なんだかぐったりしている」という小さい変化を見つけることが非常に重要になります。

香川県の小児医療をより充実させるべく、2019年5月より新生児や小児医療をなさっている先生方から直接小児外科医に相談していただける小児外科ホットラインを開設いたしました。ホットラインの開設により、今まで以上にスムーズに小児外科疾患を受け入れ可能となり、遅滞なく対応できるものと考えています。このホットラインは医療機関専用のもとなりますので、ご家族におかれましてはお子さんに心配な症状がある時には、かかりつけの先生に相談し、このホットラインをご活用いただくようお願いいたします。



診療科長の横顔

座右の銘、ポリシー

座右の銘:離

「三国志」は前半に人気があり、孔明が活躍する後半はそうではありません。ある遠征で、孔明は大軍で魏の知将が守る小さな城を攻めます。天下の奇才といわれる孔明もこの城を落とすことがどうしてもできません。部下の姜維に諫められ、孔明は城攻めに囚われていたことに気づきます。ところが、諫めた姜維は、その後魏を攻めることに固執して大敗を喫してしまいます。「物事に囚われる」ことに気づくことの難しさとそれから「離れる」ことの大事さに気づかされます。

診療科紹介

当科においては、「うつ病」、「統合失調症」以外に、児童思春期の障害（発達障害を含む）、認知症、睡眠障害（終夜脳波検査）、緩和医療など殆ど全ての精神科疾患をカバーしています。また、身体合併症を有する精神疾患にも積極的に取り組んでいます。



香川大学医学部
精神神経医学
教授 中村 祐

師長の横顔

座右の銘、ポリシー

看護師という仕事に就き、様々な年齢層の方たちと出会いがあり、そしてつながり、その経験を持つ方の多様な価値観に触れることで多くの学びが得られると常に思っています。

人に関心を持ち、人と人のつながり、人との出会いや機会をいつも大切にしています。

病棟紹介

西病棟3階は、精神科神経科病棟です。入院される患者さんは、身体合併症・術前術後・化学療法導入目的の入院が増加し、幻覚・妄想・認知機能の低下・イライラ感・不眠や強い不安な症状から日常生活に支障をきたした方の看護を行っています。混乱している状況には、理由があると言うことを理解し、人として尊重し、患者さんの意思決定ができるように、多職種とのカンファレンスを行い、退院目標を一緒に達成できるようチームで取り組んでいます。



香川大学医学部附属病院
西病棟3階
師長 森田 伸子



精神科神経科 集合写真



西病棟3階 スタッフ集合写真


知って得する認知症のこと ～認知症になっても「そのひとらしく」を支えよう～

香川大学医学部附属病院 南病棟4階師長(認知症看護認定看護師) 森 郁代

認知症とは、成人期に至るあいだに「大人」として成熟し発達してきた知能が、なんらかの脳機能障害のために著しく低下し、徐々に自立した生活が困難になる状態をいいます。平成24年度の認知症数は約462万人、65歳以上の7人に1人が認知症とされています。日常生活動作・一般的認知機能は正常で、認知症ではないが記憶障害の訴えが本人または家族から認められているMCI(軽度認知障害)も約400万人と推定されています。また最近、認知症の人のトラブルや交通事故(高速道路の逆走など)が社会問題となっています。

認知症の早期発見、早期受診には意味があります。進行を遅らせる薬物療法や、生活機能障害に合わせたサポートをしていくことで、「そのひとらしく」地域で暮らすことができます。早期受診をすることで、地域でできる支援、家族でできる支援、制度などを一緒に考えることもできます。

認知症はだれでもなる病気で、認知症になったひとも家族もそのことを受け入れましょう。もし、「自分や家族が認知症になったら」と一人一人が認知症を正しく理解することが大切です。

<h3>認知症の早期発見、早期受診には意味があります</h3> <p>日常生活の「当たり前」にできていたことができにくくなる</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">・失敗が多くなって、人とのかわりがおっくうになる・体調の変化をうまく伝えられなくなり、他の病気の発見が遅れる・「自分は何もできない」「役に立たない」と思い社会から孤立してしまう	<h3>認知症疾患医療センターとは</h3> <ul style="list-style-type: none">・認知症高齢者やその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるための支援のひとつ・認知症に関する相談窓口を設けて相談(無料)に対応し、必要に応じて診察をしたり、地域の認知症専門医療機関の紹介などをおこなう・香川県内6カ所 
--	---

第42回イキイキさぬき健康塾(平成30年12月16日開催)の講演内容を要約したものです。

心に残る風景

香川大学医学部附属病院 副病院長 横井 英人



今回、「私の好きな○○」とのお題を頂いていましたが、「私の好きな風景」として、これまで最も心に残っている風景について、お話しします。

私が初めて香川に来たのは平成元年の冬、香川医大(当時)受験のためでした。1年前に瀬戸大橋が開通し、実家のある東京から電車の乗り継ぎだけで来ることができました。朝、東京駅を新幹線を出発し、岡山駅でマリンライナーに乗り換え、瀬戸大橋を渡る頃には日は西に傾いていました。電車の中の私は全く意気揚々という心境ではありませんでした。共通一次試験(今のセンター試験)で大失敗をし、医学部は無理かも知れないというくらい追い詰められた状態だったからです。一年間予備校で頑張ったのに、全然結果が出せず、悔しくて仕方ありませんでした。そんなとき、マリンライナーの車窓からの景色が急にひらけて、瀬戸内海が目飛び込んできました。静かな水面には、規則的に並んだ小さなさざ波が見え、それが冬の終わりの柔らかく暖かい西日に反射し、海全体に金色のチェーンがびっしりと並んでいるようでした。私はヘッドホンステレオで、音楽を聴いていましたが、そのとき流れていたのは、マドンナのLa Isla Bonitaという曲でした。目の前に金色の海が広がった瞬間、曲のさびの部分が響きました。

“I want to be where the sun warms the sky”、私は太陽が空を暖めるような場所にいたい、といった意味の歌詞でしょうか?そのときの私は歌詞の内容をきちんと聞き取れていませんでしたが、なぜか切なく、でも少し暖かい哀調を帯びたメロディーと、太陽が海を暖めているようなあの景色が凄く合っていた気がしました。

気がつくと、両目から涙が途切れなく流れ出ていました。都心の灰色のジャングルで毎日毎日、歯を食いしばりながら勉強し、思えば一年間、太陽など見た記憶がありませんでした。しかし、この太陽と瀬戸内海は、受験で苦しみ悩んでいることが馬鹿馬鹿しくなってしまうくらい的美しさと神々しさを感じさせました。全く根拠がありませんが、この景色によってその後の私の人生は運命づけられたような気さえます。

あれから約30年、何度も瀬戸大橋を通っているのに、あのとき以上の景色を見たことがありません。皆さんにもそのような景色がありますでしょうか?

第13回七夕コンサートを開催

香川大学医学部 医療支援課

令和元年7月3日(水) 18時30分から第13回七夕コンサートを開催しました。

病院再開発整備完成後の初めての院内イベントとなる七夕コンサートでは、テノール歌手の佐藤丈史さんにご出演いただき、教育学部学生の先田圭吾さんと亀井美波さんによる伴奏のもと、テノールの魅力たっぷりの歌声を披露していただきました。

入院患者の皆さまには憩いのひとときとなりました。
楽しい時間をありがとうございました。



臨床研究に関するご案内

香川大学医学部 倫理委員会委員長
香川大学医学部附属病院 治験審査委員会委員長
香川大学医学部附属病院 臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに對して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー 2019.8~9月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
8/8 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
8/22 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と理学療法士が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
9/5 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
9/8 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾 (消化管の壁内から発生する粘膜下腫瘍~ヒロシゲ陰性時代のクローズアップ疾患~)	総務課	(087)891-2008
9/19 木	14:00~15:10	西病棟1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と看護師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
9/20 金	14:00~16:00	西病棟1階カンファレンスルーム	がん患者サロン 内容「がんと認知症」(仮題)	がん相談支援センター	(087)891-2473

編集委員会 (50音順)

(2019年7月現在)

阿部(看護)、荒井(検査)、大高(医療支援)、奥山(病棟)、櫻原(管理)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、
富田(経営企画)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、前川(医事)、横井(医療情報)、横川(総務) [委員長 横見瀬病院長]